

【臨床・研究】

大学1年生における子宮がんに対するアンケート調査

こう の よし え 小 うみ し づ こ
河 野 美 江 小 海 志 津 子

キーワード：大学1年生，子宮がん検診，HPV，アンケート調査

要 旨

近年本邦において，子宮頸癌発症が若年化している。厚生労働省は2004年に20歳以上の女性に子宮がん検診を行うよう指針を出したが，20代女性の受診率は約20%と極めて低い。今回，大学1年生における子宮がんに関する知識や希望を知るために，アンケート調査を行った。対象はA大学1年生274名で，子宮がんについて「名前も病気も知っている」と答えた学生は12.8%と少なく，子宮がんに関する教育が不十分な現状が明らかになった。がん検診に希望する条件は，「プライバシーの守られた医療機関で，ゆっくり説明してもらえる」「料金が無料，安い」「検診の精度が信頼できる」の3項目を選んだ学生が半数以上あった。以上の結果より，高校生以上の女性に対して子宮がんについて教育することが急務であると考えられた。医療機関においては，若い女性が子宮がん検診を受診しやすく，ゆっくり説明を聞くことができる体制を構築することの必要性が示唆された。

はじめに

近年本邦において，子宮頸癌発症の若年化が進行している。子宮頸癌の原因はHuman papilloma virus (HPV) 感染であることが明らかになり，2004年に厚生労働省は検診受診対象を20歳以上の女性にする指針を出した¹⁾。しかし，現在の20代女性はHPV感染について性教育を受けていない年代であり，発癌の高危険群であるにもかかわらず，

検診受診率は約20%²⁾と欧米に比して極めて低い。

今回，A大学1年生を対象に，子宮がんに関する知識や希望を知る目的で，アンケート調査を行ったので報告する。

対象と方法

2009年7月に，著者が講義を行ったA大学2学部1年生のうち，研究の目的を説明し同意の得られた学生にアンケート調査を施行した。質問紙の回収率は95.3% (281/295) で，そのうち回答が不十分であったものを除いた274名 (有効回答率92.9%) を分析対象とした。対象の背景は，平均年齢

Yoshie KONO et al.

1) 島根大学保健管理センター

2) 松江生協病院臨床検査科

連絡先：〒690-8504 松江市西川津町1060